

# 「自分からもっと学びたくなる授業実践」



八王子市立高嶺小学校

## 主体的で対話的な学びの中で

## 情報活用能力を育成するために



### 研究課題を設定した経緯

これからの予測困難な社会を生き抜くためには、児童が自ら考え、学んでいく力が必要になってくるだろうと考え、主題を『自分からもっと学びたくなる授業実践』と設定した。

また副題の「情報活用能力」は、未知と向き合い、既知へと変えていくための重要な能力だと考えた。高嶺小の児童の実態としては、課題解決を行う際に教科書やインターネット等から情報収集を行っている。しかし、出典を示したりや情報の正確さを確かめたりしてから活用するところまで意識をもてていない児童が多い。日頃から情報活用能力を高める指導の工夫を行い、正しい情報収集の仕方を身に付けたうえで、表現や振り返りができるようになることをめざして、1年間研究に取り組んだ。



八王子市立高嶺小学校

#### 学校教育目標

- (た)助け合う、思いやりのある子
- (か)考えを深め、自分から学ぶ子
- (ね)ねばり強く、最後までやり抜く子



# ICT 活用の基本的な考え方

## ■ 1. 考えの可視化・即時共有

ICT を活用することで互いの考えを可視化し、即時共有することができる。学習で困ったことがあったときには、相手の学習を参照し、問題解決を行う。それでもわからない場合には、相手とやりとりを行うなど、間接交流と直接交流を意図的に使い分けることで学習時間を確保しつつ、協働学習を進める。



## ■ 2. 学習の蓄積

日々の生活の中で、自分の成長や考えの深まりを実感することは少ない。しかし、ICT を活用することで、これまでの学習の成果を蓄積しておけば簡単に振り返ることができる。いつでも振り返ることができるようにすることで、自らの学びの調整につながるようにする。

## ■ 3. 学習状況の管理

個別最適な学びの実現に向けて、児童一人ひとりが自分の目標に向けて学びを進めている。児童に対して適切な支援を行っていくためには、教員がICT機器を活用することで、児童の学習状況を的確に捉え、適切な指導助言をしていくことが求められる。



# 第1学年 生活科 「あきとなかよし」

<p>単元の目標</p>	<p>秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やその他の季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったりして、秋の自然のようすや夏から秋への変化が分かったり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いたりして、季節の変化に関心を持ち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを作り出そうとしたりすることができるようにする。</p>
<p>本時の目標 1組:全16時間の9時間目 2組:全16時間の11時間目</p>	<p>1組 ・楽しく遊べる「秋のおもちゃランド」を開くために、グループで話し合い、準備の計画を立てる。 2組 ・グループごとにおもちゃをよりよいものにする。</p>
<p>活用の概要</p>	<p>○児童がグループごとに単元の計画をたてる ・ワークシートにゴールや身に付けたい力を設定し、それに伴った4時間分の計画を立てる。 ○探究学習をすすめる。 ・それぞれが立てた計画をもとに、活動のめあてを確認する。 ・グループで協力したり、個人で工夫したりすることで課題を解決する。 ○本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。</p>
<p>準備するもの</p>	<p>○ワークシート（1枚に全体が把握できるようにする） ○思考ツール（お手本コーナー、誰か教えてコーナー） ○情報サイト集（Google サイト、Google クラスルーム）</p>



児童が計画を立てることで、児童がもっと学びたくなるようにする。



児童が思考ツールや情報サイトを活用し、探求する。

## 授業者へのインタビュー



お互いにお店を出し合い、改善点を伝え、さらに良いお店にする。

児童が「自分からもっと学びたくなる」ようにするために、課題の設定方法や探究的な学習になるように意識してきました。学びを自分で進められるようにしたかったので、計画を児童に委ねました。そのことで、児童の意欲はより増しているように感じました。学びのゴールもワークシートに分かりやすく設定させたので、学習を通して達成する喜びを味わわせることができました。ICT機器の活用ではGoogleサイトが効果的でした。動画を繰り返し見られ、見たいところを選び、見たいタイミングで見られることがよかったです。

# 第4学年 国語科 「気持ちの変化を読み、 ごんぎつねの作品のよさを伝え合おう。」

単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ようすや行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。</li> <li>・ 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像することができる。</li> <li>・ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。</li> <li>・ 自ら問いをもち、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、作品の良さについてまとめようとしている。</li> </ul>
本時の目標 1組:全10時間の10時間目 2組:全10時間の7時間目	1組 ・ ごんぎつねの作品の良さカードを友だちと交流し、より良いものに仕上げる。 2組 ・ 登場人物の気持ちの変化や場面の移り変わりについて、自分が選んだ方法を活用して考える。ごんぎつねの作品の良さカードを友だちと交流し、より良いものに仕上げる。
活用の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習活動の説明</li> <li>○学習する場面ごとの問いを明確にする。</li> <li>○問いに関係する大事な言葉を本文で確認する。</li> <li>○それぞれ選んだ方法（心情曲線、吹き出し、日記、心の色の変化）を、オクリンクを活用して考える。</li> <li>○本時の学習（学び方）について振り返る。</li> </ul>
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあて・ふりかえりシート（ワークシート）</li> <li>○日記、吹き出し（オクリンク）</li> <li>○作品の良さカード（オクリンク）</li> </ul>



自分に合った学習相手や学習方法を選んで学習している。



オクリンクを活用し、作品の良さをまとめている。



自分の視点を明確にしてから、話し合いをする。

## 授業者へのインタビュー

子どもたちが主体的に学ぶためには自分たちで問いを立てること、学習方法や学習相手を選択することが必要であると考え、単元計画を立てました。子どもたちは、物語の問いを解明していく中で共通した考えに気付く子もいました。また、学習の方法を選択させたことで自分に合う方法を選び、進んで学んでいました。教科書の言葉を根拠にしていくことを意識させ、目標からずれないようにしました。3学期の「木竜うるし」の物語では、自分たちで単元計画を立てて、今まで学んできたツールをもとに子どもたちが学習方法を考え、学び合うことができ、成長を感じました。

# 第5学年 社会科 「未来をつくり出す 工業生産 「自動車の生産にはげむ人々」

<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の自動車生産が、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> <li>自動車生産に関わる人々の働きを多角的に考える力、我が国の自動車生産の特色について考える力、考えたことを説明する力を養う。</li> <li>我が国の自動車生産について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。</li> </ul>
<p>本時の目標 1組:全9時間の8時間目 2組:全9時間の6時間目</p>	<p>1組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の生産に関わる人々の働き、消費者のニーズや社会の動向に対応する工夫や努力について理解し、日本の自動車生産の特色について考える。</li> </ul> <p>2組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車生産に関わる人々の工夫や努力、それらの人々の働きを知り、日本の自動車生産の特色について考えることができる。</li> </ul>
<p>活用の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が本時のめあてを設定する。</li> <li>・学習の進捗状況や自身の学び方に応じて、児童が「めあて・ふりかえりシート」に自分のめあてを設定する。</li> <li>○探究学習をすすめる。</li> <li>・課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の学習サイクルで学習する。</li> <li>・単元のまとめを Google スプレッドシートで作る。</li> <li>○本時の学習を振り返り、文章を「めあて・ふりかえりシート」に入力する。</li> </ul>
<p>準備するもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあて・ふりかえりシート (Google スプレッドシート)</li> <li>○思考ツール (Google スライド)</li> <li>○情報サイト集 (Google サイト、Google クラブルーム)</li> </ul>



教師は「学びの伴奏者」として、児童の主体的な学びを支援する。

児童が自分で学び方を選び、学習を進めていく。

## 授業者へのインタビュー

児童一人ひとりが主役となるように、指導の個別化と学習の個性化を意識して授業を計画しました。「もっと学びたい」と思う瞬間がどこで来るかを考えたり、協働的な学習が必要になる課題を話し合ったりするのはとても楽しかったです。

研究授業以外の時間も公開し、よりよい授業をめざしました。児童が真剣に課題と向き合い、目的意識をもって学習できるようになってきたことをうれしく思います。



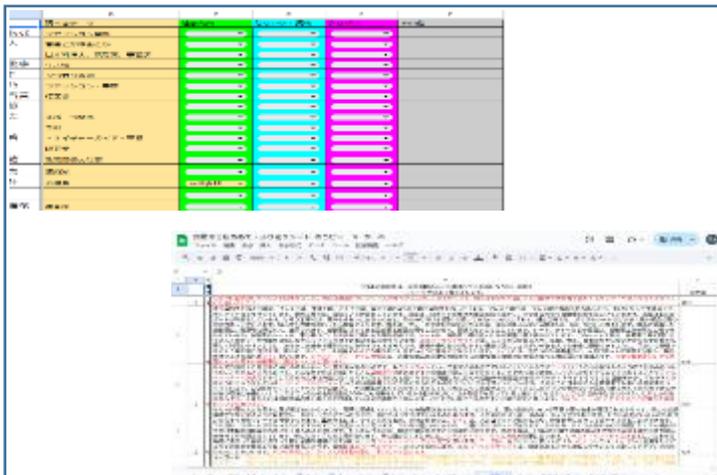
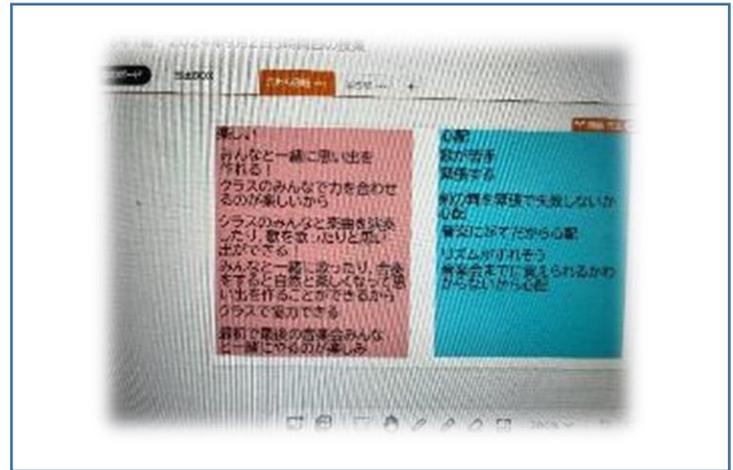
クラウドを活用した他者参照を行い、協働的な学びを支えることができた。

# 授業等で活用できる機器と活用アイデア

## ■ オクリンク・オクリンクプラス

### 【活用による児童の変容】

相手の場所に行かなくても、相手の学びを参考にして、自分の学習に活かすことができるようになった。また、オクリンクプラスでは、リアルタイムで相手の学習を参照することができるようになり、協働学習にも活用することで学習の幅が広がった。



## ■ Google スプレッドシート

### 【活用による児童の変容】

互いの学習状況が分かるので意図をもった交流に有効だった。文字数をカウントできるので、自分が書けるようになったという実感をもちやすくなった。また、個別学習になると進み方がばらばらになるため、学習課題や進捗状況を管理することにも役立った。

## ■ Google サイト

### 【活用による児童の変容】

クラスルームに貼られた動画サイトを自分の作品と比べながら、自分のペースに合わせて確認することができるので、安心して授業を進めることができた。タイムシフトカメラと併用して動画ポイント集を作成することで、さまざまな人と共有ことができ、授業実践の蓄積にも役立った。



## ■ Google チャット

### 【活用による変容】

研修で学んだことをその場で打ち込んでおくことで、研修に参加していない教師にも情報を共有することができた。PDF にした学級通信等の共有を行い、日頃の学級経営・授業改善の大きなヒントを得ることができた。



# 研究成果と課題

## 成果

- ・導入で児童が問いをもてるように工夫することで、学習課題を自分事として捉え、主体的に課題解決に向かう児童が増えた。
- ・振り返りを蓄積していくことで学びの深まりを実感できる児童が増えた。
- ・児童の学習状況をリアルタイムで参照できるようにすることで児童が意図をもって交流できるようになってきた。
- ・ICT機器を活用することで児童一人ひとりの興味・関心に合った教材の準備が可能になった。
- ・教科書だけではなく、図書資料やインターネット検索など意図をもってツール選択をする児童が増えた。
- ・ICT機器を活用することで次年度に向けた情報の蓄積や研修内容の共有などが容易に行えるようになった。
- ・探究学習を学校全体で取り組むことで教職員の理解が深まり、学年の枠を超えた教職員の学び合いが生まれた。

## 課題

- ・探究学習を行うことやICT機器を活用する頻度が増えることを心配する保護者が一定数いた。その不安を解消していくために、今後も引き続き情報発信を丁寧にしていく必要がある。
- ・児童が興味・関心をもって魅力的な問いを見いだせるよう、導入の工夫について更に教職員の理解を深めていく必要がある。
- ・個別最適な学習の実現に向けて、教師の役割をより明確にしていく必要がある。
- ・探究学習と一斉学習をどのように取り入れながら授業を進めていくと児童の学びの深まりにつながるのかを、引き続き検討していく必要がある。

